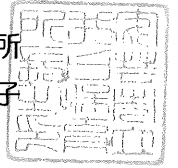


令和4年2月25日

安芸市福祉事務所
所長 山崎美佳 様

安芸市立井ノ口保育所
所長 小原和香子



令和3年度井ノ口保育所園評価報告書

1 保育所における自己評価の記録

月	自己評価	月	自己評価
4月	○園経営計画の作成 ○本年度の重点目標の設定 ○園評価項目・指標の設定	11月	○保護者園評価アンケート実施
6月	○職員への園経営計画 園評価計画の説明と共通理解	1月	○アンケート結果集計・分析
8月	○保護者会へ園評価の説明	2月	○保護者へアンケート結果の報告 ○最終評価の実施 (職員の自己評価・園の自己評価)
9月	○中間評価の実施 (職員の自己評価・園の自己評価) ○設置者への報告、改善策の検討		○設置者への報告、改善策の検討

2 評価結果

総括的な自己評価結果と改善点について

<成果と改善点>

一年を通して全職員が目標を意識し、力を合わせてより良い保育を目指し取り組んできた。

① 保育・教育活動の充実に関する項目について

子ども一人一人の発達状況や年齢にあった環境作りをし、子どもが自主的に楽しく遊べるよう心掛けてきた。室内装飾はもちろん、遊んでいく中で子ども達に自然と体力が付いていくように工夫したり、いろいろな経験ができるように保育者が意識して取り組むことで体力も付き、活発に動ける体となってきた。また、充分とは言えないが、子ども達が自ら考えて遊びを展開していく姿も見られるようになってきた。

年齢にあった本選びや読み聞かせについては、関係機関の読み聞かせ等の交流が出来ず残念だったが、絵本の紹介をしてもらうことが出来た。職員が意識して季節に合った絵本を読むことで、地域に散歩に出かけた時、子ども達が季節を身近に感じ取り、自分達が住んでいる場所に親しむきっかけとなった。

ただ、子どもが興味のある絵本を家庭で紹介していたが充分とは言えず、家庭でよく絵本を読んでいる子と読んでいない子がいた。これを踏まえて絵本の読み聞かせの家庭の状況・子ども達の好きな絵本の種類等を訪ねるアンケートを作り、回答の結果を来年度の絵本の取り組みにつなげていくこととした。(絵本の貸し出し)

② 職員の育成・資質向上や運営について

全職員や複数担任、低年齢児の担任等、必要に応じて話し合いをして連携をとってきた。月当番を作ることで保育者が意識して行動し、行事に取り組む時は、保育との関連性や得意分野も考えながら役割分担をしたが、細部まで計画が出来ておらず、もっと細かく計画する必要性を感じた。

給食担当者を含め子ども達の状況を話し保育の課題を出し合い、これからの保育の方向性を考えていくことが出来た。課題となっていた話し合いの時間は、十分に時間を取る事が出来ずこれからの課題となる。

③ 地域に開かれた園づくりについて

地域には散歩に出かけ、生き物に触れたり成り物を収穫・食したりすることで、自然を身近に感じ新たな発見へと繋がっている。地域施設との交流も、新型コロナウイルス感染予防対策のため例年通りとはいかなかったが、小学校との芋つくりと収穫・高齢者とのクリスマス会等での交流が出来た。また、地域に向けて保育内容を紹介した便りを発行することで保育活動をわかりやすく報告することが出来た。保護者には、日々の登降所時に子どもを中心とした話をしたり、保育内容や子どもの成長を帳面や便りで発信していくことで、家庭と成長を喜び合ったり、保護者が保育内容に関心を持つ機会となっている。クラス懇談会は10月に実施し、保護者同士が各家庭での話や相談を出し合うことで子育てのヒントを得たり、交流を深めることが出来た。

園評価

(井ノ口保育所)

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察	
			取組指標	結果	成果指標	結果		
☆保育・教育活動の充実	一人ひとりが自分らしさを発揮して夢中になって遊ぶための環境作り	〔環境の構成〕 子どもの主体的な学びを保障するため環境構成を行う	4 他年齢の活動や保育の中で大切にしていることを知り環境の設定や調整をする	2.9	4 自分たちが始めた遊びを発展させていく子ども 75%以上	3	職員同士で子どもの発達に合った環境づくりを話し合い、子どもが主体的に遊べるように環境を整えることで、子ども達が積極的に遊べるようになってきた。また、季節に合った遊びも取り入れることで、子ども達の遊びを広げることができた。 掃除や遊びに合った道具の準備なども行ってきた。	
			3 季節やその時期に大切にしたいことなどを踏まえ、環境を整える		3 65%以上			
			2 子どもの活動や活動の状況に応じて環境の再構成を行う		2 50%以上			
			1 1日の活動に必要な遊具・用具・素材等の準備をする		1 50%未満			
		〔保育展開〕 年齢にあった本選びや読み聞かせの場を設定する	4 関係機関と連携をして活動を行う	2.9	4 子どもたちが絵本の世界で遊び気持ちの広がりが見られる	2.9		生活の中で時間を決めて絵本を読んだり、子ども達が自由に絵本に触れられるコーナーを作ることで、子ども達が絵本に興味を持ち、自由に多くの絵本に触れることができた。 懇談会等では、子どもの発達に合った絵本や、興味のある絵本を紹介してきたが、本を読むことが習慣となっている家庭とそうでない家庭があり、もっと取り組みの工夫が必要。
			3 絵本の紹介を行い家庭で読める取り組みをする		3 家庭でも本を読む習慣が増えた			
			2 季節を取り入れた読み聞かせを行う		2 子どもたちに、好みの絵本ができる			
			1 1日1回以上クラス内で読み聞かせを行う		1 子どもたちが、自由に絵本読む			
◆職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう職員の協力体制作り	〔組織運営〕 幼児の様子や分掌事務について職員の話し合い	4 職員同士の話し合い 月4回以上	2.8	4 報告・連絡・相談を意識的に行い園務を遂行できた	3	職員会等全職員の話し合いの時間をもち、取り組みや大切にしていることを話し合い、共通認識としていくことができた。 各クラスの子ども達の姿や変化も把握することができ、今後の自分の保育のヒントとなった。 月当番を設定することで意識をし、責任を持って業務を遂行できた。	
			3 月3回程度		3 保育や園務分掌の中で、他職員と協力することができた			
			2 月2回程度		2 自分の思いを職員に伝えることができた			
			1 月1回程度		1 月当番を責任を持ってできた(話し合いの段取り・司会)			
		〔資質向上の取り組み〕 学習会の開催	4 資質向上のための学習会 月3回以上	2.6	4 学習会を行うことで、自分の保育を話し、悩みなどを出すことで子どもの姿容につながった	3.6		学習会をする中で、それぞれの思いを出し合いながら、自分たちの保育につなげていった。また、保育を行う中でも保育内容を確認しあい、保育を向上させていった。ただ、計画的に会を開催できていないので、今後の課題となる。
			3 月2回程度		3 行事に向かう取り組みを話し合うことで、園の行事とクラスの遊びの取り組みを考えることができた			
			2 月1回程度		2 他年齢の子ども達の発達を学習した			
			1 行事の度		1 受け持つ年齢の子ども達の発達を学習できた			
◎地域に開かれた園づくり	地域とともに歩む園作り	〔教材研究〕 地域教材(資源)の活用	4 地域の自然や教材を保育に取り入れる	3.1	4 地域の自然や教材を取り入れて楽しく遊んだ子ども 80%以上	3.1	年間を通して地域の自然に触れて遊んだり、旬のものを収穫するなど保育に取り入れていくことで、子ども達が地域に親しみを持つことが出来た。 地域の施設とも交流をし、親睦を深めることが出来た。 給食では収穫してきたものを調理し、子ども達に提供することで、食の大切さも伝えた。	
			3 地域の施設を訪問・見学し、興味や親しみが持てるようにする		3 65%以上			
			2 地域の自然物を環境に生かす		2 50%以上			
			1 園外に出て、地域の自然に触れて遊ぶ		1 50%未満			
		〔保護者との連携〕 子どもの育ちや保育への理解を深める機会をつくる	4 必要に応じて、家庭訪問や面談を行う	3.2	4 面談や訪問、学習会など行き、保護者の思いに寄り添い対応できた 80%以上	3.5		懇談会を行い、各クラスの発達や活動を保護者に伝え、理解してもらうことができた。 便りや帳面・登降所時にも子ども達の姿を知らせたり、子育てについて悩みを話し合い、思いに寄り添いながら保育へと繋げていくことができた。
			3 年齢の発達や子どもの個性について、保護者と学習し合う		3 65%以上			
			2 子どもの様子や子育てについて、連携・共有できる機会を設ける		2 50%以上			
			1 登降所時に子どもを中心とした話をする		1 50%未満			